

教育改革への意見

氏名：高木 洋子

性別：F

住所：大阪府高槻市塚脇1 - 11 - 25

郵便番号：569 - 1036

年齢：60歳

職業：グローバルプロジェクト推進ネットワーク代表

テレクラス・インターナショナル・ジャパン代表

I * E A R N J A P A N代表

Tel:0726-88-3415

Fax :0726-80-2115

Mail: teleclas@mbd.sphere.ne.jp

<http://www1.sphere.ne.jp/Teleclas>

<http://jearn.kyushu-id.ac.jp>

[意見]

この15年間にわたり、主に電気通信を利用した国際間交流・国際間共同学習の推進活動をしているテレクラス・インターナショナル・ジャパン、並びにインターネットを使った多くの国際間プロジェクトを走らせている世界的な教師のネットワーク I*EARN (International Education and Resource Network) Japan , その他 Schools Online Japan, こねっと国際など海外との交流や共同学習を進めている国内ネットワークが集まって、2000年9月にグローバルプロジェクト推進ネットワークを発足させました。

教師同士の交流や、小学生・中学生・高校生の国際間プロジェクトやビデオ会議参加を通して、海外教育ネットワークとの垣根を低くし、グローバルプロジェクトを身近に、容易に教室へ取り入れる環境作りをするために、多くの活動をしています。

その主な活動は：

グローバルプロジェクト研究会 開催

各地域に国際交流コーディネータ 育成

I*EARN ほか海外からの日本語によるプロジェクト紹介・参加募集・支援
国内のプロジェクトを海外のネットワークへ紹介・参加校を募集

各種ビデオ会議を企画・実践
海外ネットワーク、特に I*EARN の世界中の教師との交流・その国際会議
への参加と報告会
国内・国外のメーリングリストを活用した情報交換
国際交流・グローバルプロジェクト ヘルプデスク
一般の行政からは見えにくい教育機関ヘイターネット環境を提供

このグローバルプロジェクト推進ネットワークの大きな目標は、毎年500名
余りの世界各国からの教師が集まって開催される I * E A R N 国際会議があり
ますが、その第10回を2003年に日本で開こうとするものです。

このような活動を日夜、続けている私たちにとって、期待していた今回の教育
改革国民会議中間報告は、国内の教育制度のあり方にのみ注意が払われ、既に
大きく成長している世界的な教育ネットワークへの視点・接点が、まったく見
当たりません。僅かに触れているかと思われる箇所は、提言4、 の4、(4)
に「IT教育と英語教育は「本物・実物」に触れさせながら促進。英語を母語
とする外国語指導助手らを登用」とあります。 学習した英語を使って子供た
ちが世界へデビューし参加できる数多くのプロジェクトがあるというのに、教
師の英語力・経験不足・海外の教師人脈のなさ・情報不足・学校内でのチーム
がなく、その仕組みもないために、現実の世界の「本物・実物」に触れさせま
せん。

事実、国内のどれほどの教育関係者が、今、海外で当たり前実践されていて、
大きな教育の波となっている教師間ネットワークとそのプロジェクト、生徒同
士の交流を把握しているのでしょうか。その中であって、日本の生徒たちの参加
が待たれながら、実際のところは、日本側が無関心で無知であることに気づい
ているのでしょうか。

学校での英語学習は、世界各地の子供がグローバルプロジェクトに参加してい
るように、日本の子供も交わって参加できる「そのために」学習しています。
各国の小学校・中学校・高等学校の先生がネットワークでプロジェクトを進め
ているように、日本の先生が同じネットワークに参加し交われるように、「その
ために」学習しています。

「受験」が学習目的というのは淋しいではありませんか。「国際理解」のためと
言うには茫洋として捉えどころがないではありませんか。

またインターネットが、否応なしに英語を使った世界であるという日本にとっては厳しい現実を、見て見ない振りをしています。そして、このインターネットが、今の生徒たちが成人して仕事をするビジネスの世界なのです。

学校のIT化は、ずばり学校の国際化につなげる素晴らしい道であり、それを敢えて使わないIT化はその価値がありません。

この学校でのグローバルプロジェクト経験は、大人になってそのまま、仕事に社会に生かされます。各国とインターネットでつながった教室の舞台が、会社や国際機関のオフィスに舞台を移すだけです。日本人は辛抱強く、器用で、和を貴び、根回しの術があり、ハイテクに強く、何よりも平和憲法を持ち、どんな世界の舞台でも大事な役割を持ち、丁寧にリーダーとして仕事ができる筈です。その自信とキャリアは、子供時代からのグローバルプロジェクト参加で養い磨かれます。今、先生という立場の方は、そんな未来の日本人を、世界という舞台へ送り出すことのできる人です。I * E A R Nのみならず、世界の教育ネットワークと連携しあって、グローバルプロジェクトをインターネットにつながった教室で待つ小・中・高等学校の皆に紹介し、子供達を世界へデビュー、ついでに先生も世界へデビューできる仕組みを作ってください。

2010年の国際交流コーディネータについて聞いています。それまで今の子供たちには機会をあげないのですか。世界はそれまで、気を使って日本からの参加を待っていてくれますか。答えはNOです。

もう一点あります。

話題の「奉仕活動を全員がする」という提言があります。

これを読むと、戦前の日本国民の義務としての奉仕活動を思い出します。日本のためにという美名のもとに、どれほどの一人一人の自由が奪われ、精神的に貧弱で窮屈な生活を送ったのでしょうか。隣近所や官の目に縛られたのでしょうか。国民全員一緒の原則が、実に多くの若者を戦地で死に追いやり、相手の若者を殺す殺人者にしたのは、僅か50年前のことです。その同じ構造が見えてくると思うのは、私だけでしょうか。

ボランティアは、自ら持てる物や技術、心の分かち合いの素晴らしさに、十分に気づいた上での、自然に溢れ出る行為です。その気づきのための準備期間や内容はあるのでしょうか。

これらは、一人のボランティア活動を進めている者の眩きです。きっと数十万件という意見の中に埋もれてしまうのですが、書かずにおられません。